50万人市民を災害から守る 松山全世代型防災教育への取組み

愛媛県松山市 松山防災リーダー育成センター

1 50万市民の１人も取り残さない組織的な防災教育

多発する自然災害から50万市民の命を守るためには、多くの防災リーダーを必要とします。そこで、松山市では全国に先駆けて公費負担で市民の防災士資格取得に取り組みました。また、平成26年からは松山市と愛媛大学が連携して「防災士養成講座」を開始しました。年４回の開講で毎年400名の防災士を養成しています。また平成27年からは愛媛大学に市内４大学の学生が受講可能な「環境防災学」講座を設けています。受講生は防災士試験を受験でき、合格すれば防災士資格を取得できます。毎年200名の学生が防災士になっています。このような取組みで、令和６年には防災士が１万人（現在12,173名）を越えました。全国の市区町村単位では第１位です。

１万人を超える防災士は、各組織を代表する人たちです。教職員の防災士が400名を越えます。また、自主防災組織では2,000名を超える防災士が各種の地域防災活動を指導しています。産業界、福祉関係などでも多くの防災士が活躍しています。また、100名近い大学生による防災リーダークラブが結成され、クラブ員が学校や地域の防災活動を指導しているのは全国的にも珍しい取り組みです。

防災士の活躍により41地区の自主防災組織で年間３千回を越える防災活動が展開され、延べの参加者は10万人以上に上ります。学校防災教育では、中学１年生４千名を対象にマイ・タイムライン授業が実施されています。授業にはデジタル版マイ・タイムラインが使用されます。現時点でのスマホアプリの登録者は３万人近くになります。松山逃げ遅れゼロプロジェクトの推進に向けて大いなる成果が出ています。また、地域や学校等で実施される各種の防災教育活動には、大学生の防災リーダークラブ員がボランティアとして協力してくれています。このように、他の防災活動も含めてボランティアとして活動する防災士が中心的役割を果たしています。防災士抜きでは松山市の各種の防災教育活動は成り立ちません。



自主防災組織の取組み（総合防災訓練）

2 家庭で取り組む 逃げ遅れゼロプロジェクト

松山市の防災教育活動の特徴の一つに家庭単位での防災意識の向上への取組みがあります。その活動の一つである「とどけ！いのち命のハガキプロジェクト」を紹介しておきます。先述した中学１年生を対象としたマイ・タイムライン授業の仕上げとして早期避難の大切さや日頃の備えの重要性を、両親などの大切な人宛にハガキを書きます。心の籠ったハガキを受け取った保護者等は、心を打たれて自然災害への備えについて家族で話し合い、防災意識を高めます。



中学生「届け！いのちのハガキプロジェクト」（郵便局掲示ポスター）

また、命のハガキはポスターに仕上げられ松山市内の郵便局や公民館など市内各所で掲示され、市民の防災意識の向上にも一役かっています。このプロジェクトは松山市教育委員会、松山中央ライオンズクラブ（ハガキ提供）、愛媛県中予郵便局長会（ポスター掲示）の協力により実施されています。

3 人材育成を核とした 継続性のある防災教育

防災教育が成果を上げるためには継続性が担保されていることが必要です。継続性を高めるための取組みを２つ紹介しておきます。

一つ目は、小学５年生から高校３年生までが参加するジュニア防災リーダークラブ活動です。防災まち歩きや防災キャンプなど、年に10回を越える活動を用意しています。これらの活動への参加を通して将来的に地域の防災リーダーとなる若者が着実に育っていきます。

二つ目は、１万人を越える防災士を対象としたフォローアップ研修の実施です。フォローアップ研修は、災害時のトイレ対策や避難所運営などの14の課題について、実効性を上げるために40～50名程度の少人数開催で行っています。防災士資格取得に続いて各組織での防災実践、また被災地見学、そしてフォローアップ研修などと継続的に防災意識とスキルの向上が図られ、着実に各組織の防災リーダーが育成されていきます。また、ここに示した以外にも各種防災講演会や被災地見学など、様々なプログラムを用意して防災意識の向上に努めています。



防災リーダークラブ発足式



ジュニア防災リーダークラブ活動